

足関節骨折の観血術を受けられる様へ

手術は__月__日()に予定されています。お時間は、入院後病棟にてお聞ください。

主治医

看護師

経過 月日	手術前日	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2～6日目	手術後7～27日目	手術後28日目以降
検査						術後 7日目 血液検査、レントゲン 術後21日目 レントゲン	術後28日目 レントゲン
処置	必要に応じて手術部位の除毛を行います 爪を切ります 夜、眠れない場合は、早めにお知らせください	朝、浣腸をします 血栓予防の靴下をはきます 10時頃(術前)に体温、脈、血圧測定を行い、お体の状態を確認します 手術着に着替えます 術前の点滴を開始します 血液型バンドをつけます 手術室に行く前に 義歯、ヘアピン、アクセサリー等を外します	手術後は術後回復室に入ります 酸素吸入、心電図モニター、足の空気マッサージを行います 時間毎に、体温、脈、血圧測定を行います 尿管が入っているので、排尿でトイレに行く必要はありません 痛みの強いときには痛み止めを使います 痛みや腫れが最小限となるよう、患部を冷やしたり枕で挙上したりします 患部の保護のため、術後もギプスシーネを装着します	創部の確認と消毒を行います 尿管を抜きます 排尿がスムーズに行えるように、水分を多めに摂取して下さい 歩行補助具を使用しトイレに行くことができれば、血栓予防の靴下を脱ぎます 術後回復室から一般病室に移動します 患部を保冷剤で冷やし、枕で挙上します	創部の確認と消毒を行います 創部の状態でガーゼを透明シールに変更します(シールに変更後は毎日消毒はしません) 患部を保冷剤で冷やします(創部の熱感が軽減するまで継続します)	術後7～10日目に抜糸します リハビリの状態に応じて医師やリハビリ担当の指示のもと、ギプスシーネの着脱を行います	退院おめでとうございます。お大事に!!
							ご不明なことがありましたら、いつでもお尋ねください
注射 点滴		手術前より点滴を開始し、翌日朝まで継続します 抗生物質の点滴が1日2本(朝、夕)あります。					
内服薬	持参した薬は、一度担当看護師に全て預けてください	朝(術前)、看護師が指定した薬のみ少量の水で内服します	術後も本日の経口内服は、できません	必要に応じて、鎮痛剤の内服が処方されます → 痛みが落ち着いてきたら、徐々に内服の量を減らしましょう 朝より内服再開です 一部開始できない薬もあります 必要時事前に説明します			患部の足に体重をかける練習が開始すると、一度軽減した患部の腫れや痛みが再発します 疼痛時は、鎮痛剤を内服しましょう (胃部の不快がある時はお知らせください)
食事	制限はありません 夕食は食べられます 21時以降は食べたり飲んだりできません。	1日中、食べたり飲んだりできません 飴、ガムも禁止です		朝より食事が開始します			
安静 リハビリ	移動には、松葉杖や車椅子を使用します トイレや洗面以外は、極力ベッドにいきましょう (患部が腫れないように挙上します)	術前の点滴開始後から松葉杖は使用せず、移動は車椅子(看護師を呼ぶ)になります	手術後はベッド上安静になります 急に頭を持ち上げたり、起き上がりたりしないでください 寝返りは、できます 患部側の足の指は、良く動かしましょう	基本的には、立つこと、歩くことはできません (医師の指示で変更の場合もあります) 移動には、歩行補助具(車椅子、松葉杖)を使用します 医師の指示によりリハビリを開始します	術後21日目のレントゲン結果で患部の足に体重をかける練習がスタートします	術後28日目のレントゲン結果で患部の足に体重の1/3の重さをかける練習が開始となります 退院後は外来通院リハビリとなります	
清潔	シャワーに入ります			お体を拭きます	創部のガーゼを透明なシールに変更したら、シャワー可能です ギプスシーネを濡らさないようにビニール袋を使用します	患部の状態でシャワー時シーネを外すことができます(医師の指示が必要です)	
説明	外来で手術について説明を受けていない方へは、手術の説明があります 手術に必要な物品の説明をさせていただきます 麻酔科医の診察があります。	手術中、ご家族の方は病棟で待機し所在がわかるようにしてください	手術の結果について医師より説明があります				

※この表は治療のおおよその経過をお知らせするものです。状況に応じて予定が変更になる場合があります。